

次の100年へ 更にその先の未来に向かって



# 福山100 NEN 教育 7th year

2022年8月23日

第6回教育振興基本計画部会  
話題提供

## 公立学校の役割と責任

～令和の日本型学校教育の構築へ～

- 1 福山100NEN教育がめざすもの
  - ・スタート時の知徳体の状況
  - ・全ての施策の中心に“学びが面白い”
- 2 主体的・対話的で深い学び
  - ・小学校学びづくりパイロット校 他
- 3 多様な学びの場の充実
  - ・生徒指導規程の見直し 他
- 4 リアル&デジタル “学びが面白い”の深化



私たちの毎日が、未来になる。

日々の授業を中心とした  
全教育活動の中で、  
「21世紀型”スキル&倫理観”」  
を育み、  
日常の様々な場面で  
行動化できる学びをつくる。

【広島県福山市】

面積：518.15km<sup>2</sup>  
人口：462,046人  
小学校70校，中学校30校  
義務教育学校2校，中高一貫校1校  
児童 24,482人 生徒 11,872人

福山市教育委員会  
教育長 三好雅章

2014(H26)

2015(H27)

2016(H28)

2017(H29)

2018(H30)

2019(H31→R元)

〈県〉「学びの革新アクションプラン」  
・資質・能力の育成を  
目指す主体的な学び

〈国〉一部改正「地教行法」  
・地方教育行政における  
責任の明確化(新教育  
長の設置等)

〈国〉「教育の機会確保法」  
・不登校の児童生徒等に多様  
な学びの場を提供

〈県〉「教育に関する大綱」  
・一人一人が、生涯にわたって主体  
的に学び続け、多様な人々と協働し  
て新たな価値を創造する人づくり

〈国〉「学習指導要領」改訂  
・社会に開かれた教育課程  
・主体的・対話的で深い学び  
・教科「道徳」、「外国語」新設等

〈県〉「遊び学び育つひろしま」推進プラン  
・小学校以降の教育の基盤となる  
自ら学ぶ意欲を育む

〈国〉「Society5.0に向けた人材育成  
～社会が変わる、学びが変わる～」  
・個別最適化された学びを促進する  
多様な学習の機会と場の提供  
・異年齢・異学年による協働学習等

〈県〉「学びの革新」全県展開  
・「主体的な学び」の推進、カリキュラム・マネジメント  
・「学校における働き方改革取組方針」「部活動の方針」策定

〈国〉「学習評価の在り方」報告  
・学習、指導の改善に繋がる評価、必要性・  
妥当性が認められない評価の見直し

〈県〉「個別最適化された学び」に関する  
取組の徹底  
・時間、健康管理を意識した働き方  
〈県〉「個別最適化された学び」推進  
・「イネプラン教育」導入の研究

2003(H15)～2011(H23)  
福山市学校教育ビジョンⅠ～Ⅲ

2012(H24)～2016(H28)  
「福山市学校教育ビジョンⅣ」  
小中一貫教育の創造  
(準備期間3年)

全面実施  
小中一貫教育

3つの価値

〈教育・経済・評価〉  
福山に愛着と誇りを持ち、  
変化の激しい社会を  
たくましく育てる  
子どもを育てる。  
1・2・3で取組む  
1 カリキュラム  
(自ら考え学ぶ授業)  
2 ふるさと学習  
3 市風一丸

主体的・  
対話的で  
深い学び  
学びが  
面白い

元来  
知的好奇心  
高い子供達  
多様な  
学びの場  
の充実

とは…

子どもたちが  
「内発的動機付け」に  
基づいて学んでいる姿

自発的  
内発的動機付け  
・新しいことを知ることができ  
嬉しい  
・問題を解くことが面白い  
・勉強することが楽しい

非自発的  
外発的動機付け  
・先生や親に叱られたくない  
・成績が良いと褒められる  
・先生や親に褒められたい

6月「小中一貫教育」学校教育  
職員に関する基本方針  
8月「学校評価」学校評価  
計画(5年計画) (第1巻中)

〈その他 官民連携〉  
・経営者 \*埼玉建設  
・(株)教育測定研究所 他

2012(H24)～業務改善:教育活動の精選等 補助員

○指導要領・学校日誌・選考等の  
デジタル化、グループウェア導入、  
教育課程編出等  
▽小中一貫補助員 60人  
▽校務補助員(県)5人

○2012(H24)～業務改善:教育活動の精選等 補助員

○2012(H24)～業務改善:教育活動の精選等 補助員

○2012(H24)～業務改善:教育活動の精選等 補助員

○2012(H24)～業務改善:教育活動の精選等 補助員

### 福山100%教育

1st year

日々の授業を中心とした全教育活動の中で、  
「21世紀型スキル&倫理観」を育み、  
日常の様々な場面で行動化できる学びをつくる。  
(21世紀型スキル&倫理観…知識・技能、思考力・判断力・表現力、学び続ける力、課題発見・解決力、コミュニケーション力、創造力、共働き、協働性、チャレンジ精神、粘り強さ、ロースタンド、健康・体力等)

2nd year

「第二次福山市教育振興基本計画」  
＝教育に貫する大綱 (2017～2021)

### 「仕組み」づくり (Scrap & Build)

◆研究教科等の固定化  
・全ての教科の研究を継続・積み上げる

◆カリキュラム・マップ作成  
・21世紀型「スキル&倫理観」の育成で  
各教科等(行事等)を関連付けた教育  
課程(カリキュラム)を編成

◆市内一斉研修日の設定  
・原則毎月第3木曜日の午後、授業研究を  
中心とした研修の実施(参加者:全教職員)

◆公開研の市教委指定  
◆夢・未来プロジェクト  
・子どもたちの夢の実現を応援

◆民間の団体・施設等と連携・指導を受けている  
児童・生徒の比率が高い  
・フリースクール、放課後等デイサービス等と連携し、  
不登校児童生徒の努力を踏まえながら、適切な  
出欠の判断をする

◆ユネスコスクール加盟申請スタート  
【加盟状況】(2021年3月末現在)【市立校数】小74校 中33校 中高一貫・義務教育 各1校  
加盟:小学校10校 中学校2校 中高一貫校1校  
申請中:小学校4校 中学校17校 義務教育学校1校】計79校/109校

◆地域学習活動支援事業  
・地域在住の退職教職員等の支援を得て、  
基礎学力の補充等を行う(小4～6年)  
【教室数】(知事研修センター)20 土曜フリースクール:6  
【参加児童生徒数】517人

○一斉研修日設定、研究教科固定等

○夏季一斉研修、部活動休業日、  
出張簿簡業化等

○小中一貫補助員 30人 ○図書館補助員 10人  
○校務補助員(県)10人・(市)49人

○小中一貫補助員 24人 ○図書館補助員 15人  
○校務補助員(県)12人・(市)55人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

○小中一貫補助員 3人 ○図書館補助員 24人  
○校務補助員(県)12人・(市)93人  
○部活動指導員 56人

### 「子ども主体の学び」づくり (Active learning)

◆(小)学びづくりフロンティア校【2校】  
・小1の英語・算数の授業を中心に、学力の  
基礎である「言語」や「数」を獲得する過程を  
明らかにする

◆(小)年間総時数の上限設定  
・教育内容(質)と時数(量)の両面から  
教育課程を整理

◆(中)教科の専門性向上フェーズ(2018策定)  
・一斉研修の中学校教科別研修において  
大学講師等招聘した過年的な指導  
(参加者:全教職員)

◆子ども主体の学びづくり研修  
・放課後の時間を利用して、動画や資料等を基に学びにつ  
いて交流・協議(参加者:希望者)  
(2018年度 397名参加)

◆よこそ美術館プロジェクト  
・全小4児童をふくくや美術館に招待  
◆ばらちのまち 福山国際音楽祭  
・全小5児童をクラシック等コンサートに招待

◆「きょうこ」設置【中学校6校】  
・集団で学ぶことが難しくても、個に応じた学習  
支援により主体的に学ぶことができる学習環境  
(2018年度末 30日以上出席者 59人減)

2019 経産省「未来の教室」実証事業  
・個に応じた学習計画やICT活用により、きょうこに登校  
する生徒の主体的な学びを促す教育環境  
モデル校:城東中 協力:明通館高等学校  
実証企業等:東大ROCKET,学研プラス, NTTドコモ

◆地域学習活動支援事業  
(2018年度末)22 土曜校数:4】455人

○留守番電話(後討事項) 学籍、出欠簿、成績、  
再取金等一括管理システム導入

【2018年度 時間外勤務の状況】  
(45h以内) 小:68.6% 中:40.4%  
(80h超) 小:0.6% 中:9.0%

【2019年度 時間外勤務の状況】  
(45h以内) 小:81.1% 中:48.9%  
(80h超) 小:0.2% 中:7.6%

「子ども主体の学び」全教室展開  
学びが面白い!

野郎・予定通り vs 野郎必死  
既成概念・価値観(過去) vs 既成(未来?)

カラフル  
4th year



### 「子ども主体の学び」づくり (Active learning)

◆学力の伸びを把握する調査  
【2中学校区(2中6小)】  
・項目反復理論(IRT)による調査で、個々の学力や  
非認知能力の伸びを把握し、個に応じた学びづくりの  
工夫

◆(小)学びづくりパイロット校【7校】  
・教科や学年の枠を超え、子どもの学びに即した  
カリキュラムの編成・実施  
・学ぶ過程をみる評価の在り方の研究・実施

◆(中)探究学習プログラム【5校】  
・実在の企業や人物を題材に、正解のない課題探究を  
総合的な学習の時間やキャリア学習に導入

◆(中)外国語ラウンドシステム【5校】  
・4技能(聞・読・話・書)の総合的な定着を目指す  
学習法の導入  
◆21世紀国際ティーチャーズ・プログラム—進化—  
・教員自ら「主体・対話的で深い学び」の実践者となる  
(参加者:教委・校長が推薦する市立中学校教諭等35名)

◆よこそ美術館プロジェクト  
・全小4児童をふくくや美術館に招待  
◆ばらちのまち 福山国際音楽祭  
・全小5児童をクラシック等コンサートに招待

◆「きょうこ」設置【中学校6校】  
・集団で学ぶことが難しくても、個に応じた学習  
支援により主体的に学ぶことができる学習環境  
(2018年度末 30日以上出席者 59人減)

2019 経産省「未来の教室」実証事業  
・個に応じた学習計画やICT活用により、きょうこに登校  
する生徒の主体的な学びを促す教育環境  
モデル校:城東中 協力:明通館高等学校  
実証企業等:東大ROCKET,学研プラス, NTTドコモ

◆地域学習活動支援事業  
(2018年度末)22 土曜校数:4】455人

○留守番電話(後討事項) 学籍、出欠簿、成績、  
再取金等一括管理システム導入

【2018年度 時間外勤務の状況】  
(45h以内) 小:68.6% 中:40.4%  
(80h超) 小:0.6% 中:9.0%

【2019年度 時間外勤務の状況】  
(45h以内) 小:81.1% 中:48.9%  
(80h超) 小:0.2% 中:7.6%



(国)小学校「学習指導要領」実施  
 (国)「GIGAスクール構想の実現」  
 ・校内通信ネットワークの整備、児童生徒一人一台端末の整備による公正に個別最適化された学びの実現  
 (国)「改正給特法」第7条関係施行・教職員の業務量の適切な管理  
 (県)「公立高等学校入学者選抜制度の改善」(令和5年度から)  
15歳の子供に付けさせたい力(自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる)  
 (県)「学校における働き方改革取組方針」(令和2年3月)

(国)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)令和3年1月 中央教育審議会  
 (県)「教育に関する大綱」 令和3年2月  
 生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり  
 (国)中学校「学習指導要領」実施  
 (国)「義務教育標準法の一部を改正する法律」第141 施行  
 ・小学校学級編成の標準の引き下げ(40人→35人)  
 ・少人数学級の計画的整備(段階的にR7年度末迄に)

(国)高等学校「学習指導要領」実施  
 (国)中央教育審議会「教育振興基本計画部会」スタート  
 ・次期(R5～R9)の教育基本計画の策定及び円滑な実施について議論  
 ・内容…「リアル」と「デジタル」の最適な組み合わせ、共生社会の実現を目指す学習環境、多様な教育データを活用するための方策 等  
 (県)広島県教育支援センター「SCHOOL'S」開校  
 ・不登校等の小中学生を支援する教育支援センター  
 (県)新しい制度による公立高等学校入学者選抜実施  
 ・生徒が主体的に志望校を選択  
 ・「自己表現」の実施 等

5th year

6th year

7th year

「子ども主体の学び」全教室・全学年展開  
**学びが面白い！リアル**  
**2020 踏み出す**  
 4/16～5/6 全国に緊急事態宣言発出  
 → 福山市立学校 一斉臨時休業 (4/15～5/31)

「福山みらい創造ビジョン」(2021～2025)  
 リアルとデジタルの学びが面白いの深化

「第三次福山市教育振興基本計画」(2022～2026)  
 「第三次福山市子ども読書活動推進計画」(2022～2026)  
 理念・抽象  
 「質」を求め「実」を追求する  
 実践・具体

- ◆(小)学びづくりパイロット校【+4校】
- ◆(中)探究学習プログラム【新規5校】
- ◆(中)外国語ラウンドシステム【+10校】
- ◆学力の伸びを把握する調査【全校実施】
- ◆全校・校区でSDGsの設定  
 ・SDGsを題材にしたカリキュラムの見直し
- ◆「大好き！福山～ふるさと学習～」  
 福山県(デジタル版)リニューアル開始  
 SDGsスタートブックの編集 (2020年度末完成)
- ◆福山ティーチャーズ・アカデミー  
 ・これまでの価値観を問い直し未来の教育に向けた実践研究(対象:市立学校教諭50名)  
 ・小学校1学年担任研修  
 ・子どもの経験や達成を大切にする学びづくり
- ◆個別最適な学びに関する実証研究事業(1/2年度)【福山中】  
 ・生徒一人一人が、自らの興味・関心を基に企画費・タスク(仕事)・スケジュールを考え、「My探究」の実践
- ◆プログラミング教育支援ツールの導入  
 ・「ネットワークを活用したプログラミングによる問題の解決」を学ぶ教材の導入
- ◆「子ども発達支援センター」教員長期研修  
 ・発達相談や医療的支援の実践を通して、個に応じた支援を理解し、指導的役割を担う人材の育成(対象:市立学校教諭等 前後期各1名)

- ◆(小)学びづくりパイロット校【11校】
- ◆県小・小学校低学年学ぶ喜びサポート事業(1/1年度)【甲南小】
- ◆(中)探究学習プログラム【新規3校】
- ◆県:探究的な学習の在り方研究推進事業(1/3年度)【一瀬中校区】
- ◆県:キャリア教育カリキュラム開発事業(1/3年度)【新市中央中校区】
- ◆県:個別最適な学びに関する実証研究事業(1/2年度)【福山中】
- ◆(中)外国語ラウンドシステム【全校】
- ◆県:5ラウンドシステムに関する実践的研究(1/1年度)【地研中】
- ◆県:中学校英語ICT活用による言語活動充実(1/1年度)【新市東洋中】
- ◆学力の伸びを把握する調査【全校実施2年度目】
- ◆ICT活用研修(基礎・発展・応用)
- ◆教職員ニーズ研修
- ◆外国語ラウンドシステム実践交流
- ◆「学ぶ過程」の評価システム等の研究・構築

- ◆県指定事業の継続・拡充  
 ・小学校低学年学ぶ喜びサポート事業【坪生小】  
 ・探究的な学習の在り方研究推進事業【一瀬中校区】  
 ・キャリア教育カリキュラム開発事業【新市中央中校区】  
 ・5ラウンドシステム実践的研究【福山中】  
 ・英語ICTによる言語活動充実【朝の浦学業】  
 ・小学校教科担任制実践校【緑丘小、駅前西小】
- ◆幼保小連携仕組み構築  
 ・公私共創・協働・協定など小学校の計画的な連携・接続
- ◆学力の伸びを把握する調査【全校実施3年度目】
- ◆ICT活用研修(アプリケーション・教科)
- ◆幼保小合同研修の充実  
 ・遊びや体験を通じた学びをつなぐ
- ◆個に応じた学びづくり研修  
 ・アセスメントに基づき支援の在り方

- ◆「かがやき」(フリースクール)西部開設  
 ・在籍校と連携し、登校が難しい児童生徒へ個別にじた指導・支援を行う場(既存:中央、東部)
- ◆GIGAスクール構想  
 ・全児童生徒1人1台端末提供(年度内)  
 ・学習用クラウドサービス活用(Google社)  
 ・赤坂GIGAスクール実証事業(株)メディアタワー中心)  
 ・リノバ実証事業(株)ベネッセホールディングス(他)
- ◆学校図書館の充実(2020年度23校改修)  
 ・環境整備(図書室改修、蔵書の廃棄・購入等)  
 ・補助員等研修実施(学校図書館運営・活用等)  
 ・改修予定20校以外の図書館の整理
- ◆地域学習活動支援事業(デジタル教諭:28 土佐教諭:2)【413人】

- ◆2021 経産省「未来の教室」実証事業  
 《継続》モデル校:城東中
- ◆1人1台端末整備による「個別最適な学び」の推進  
 ・文科省実証事業によるデジタル教科書の活用【全校】  
 ・各校が選択したEdTech(AI型ドール等)の活用  
 ・オンライン授業の研究・実施(緊急時の学校休業等へも対応)  
 ・不登校傾向にある児童生徒へのオンライン学習等
- ◆フリースクールの充実  
 校内:さくらルーム【6中2小+21中14小1園】  
 校外:「かがやき」の充実【中央、東部、西部】
- ◆県:不登校スペシャリストチーム(SSR)【2中2中校区】
- ◆学校図書館の充実(2021年度20校改修)
- ◆民間・公共プールを活用した水泳授業【+6校(計12校)】
- ◆2022 学校再開による新たな学校4校開校！最終年準備  
 ・「イナプラン」教育校「常石」と「学園」【1/11認定No.2】  
 ・特認校「広瀬学園」・義務教育学校「想青学園」・中二階層校「新市中央中学校」
- ◆地域学習活動支援事業(デジタル教諭:31 土佐教諭:2)【500人】

- ◆2022 経産省「未来の教室」実証事業  
 《継続》モデル校:城東中
- ◆学習端末を活用した学びの深化  
 ・文科省実証事業によるデジタル教科書の活用【全校】  
 ・オンライン・オンデマンド授業の充実(授業目的送信機)等  
 ・課題への対応と活用の約束ガイドライン策定
- ◆フリースクールの充実  
 校内:さくらルーム【6中2小+23中21小1園】  
 校外:「かがやき」【中央、東部、西部】  
 ・10月:かがやき東部を伊勢田幼稚園時地へ移校  
 ・アセスメントに基づきサポート計画の策定・活用
- ◆民間・公共プールでの水泳授業【+2校(計14校)】
- ◆学校図書館の充実(2022年度20校改修予定)  
 ・利活用ガイドライン「図書館から学校図書館へ」策定
- ◆福山中・高等学校第V期ビジョン策定  
 ・探究・グローバル・キャリア教育、部活動の充実  
 ・高等学校野球部を強化クラブに指定
- ◆地域学習活動支援事業(デジタル教諭:31 土佐教諭:2)

○夏休み(8月のみ)短縮～年間を通して授業時間原則5時間の実施  
 ○評価の在り方、使用教材の見直し  
 [2020年度 時間外勤務の状況]  
 (45h以内) 小:96.6% 中:77.2%  
 (80h超) 小:0.01% 中:0.2%

♥図書館補助員 28人  
 ♥校務補助員(県)13人・(市)93人  
 ♥部活動指導員 45人

経産省「未来の教室」実証事業「部活動プラットフォーム」  
 ・プロアスリートなど専門のコーチからオンラインによるサポート  
 《継続》モデル校:城北中、福山中高 実証企業:住友商事

○「働き方改革取組方針」改訂  
 [2021年度 時間外勤務の状況]  
 (45h以内) 小:94.4% 中:73.6%  
 (80h超) 小:0.1% 中:1.6%

○校務の情報化  
 (学級通信、採点・成績、校務支援システムの充実等)

○図書館補助員 34人  
 ♥部活動指導員 68人 ♥学習指導員 36人  
 ♥校務補助員(県)38人・(市)93人

○人材確保の仕組み構築  
 ○1人1台端末を活用した業務のデジタル化  
 ・出簿デジタル化全校実施等  
 ○部活動指導体制の見直し  
 ・段階的な地域移行等【モデル校:鷹取中】  
 ○統合型校務支援システム構築に向けた準備

♥図書館補助員 37人  
 ♥部活動指導員 66人 ♥学習指導員 39人  
 ♥校務補助員(県)48人・(市)93人

新型コロナウイルス感染拡大 ↓ 既存のルールにとらわれず臨機応変・できる人から、できることかづー挑戦

福山100NEN 教育研究員による分析・考察

内発的動機付け

デジタル・ディバイス  
 子どもが自ら判断し日常的に学びに活用する  
 端末は  
 文房具  
 情報モラル  
 リテラシー

デジタル・ディバイス

デジタル・ディバイス

デジタル・ディバイス

デジタル・ディバイス

デジタル・ディバイス

デジタル・ディバイス

ファシリテーション

# 知(確かな学力)・徳(豊かな心)・体(健やかな体)の状況

福山100NEN教育スタート2016年前後

## 知 「全国学力・学習状況調査」 正答率 (%)

			小学校			中学校		
			2016	2017	2018	2016	2017	2018
「知識」 A問題	国語	市	78.6	77	74	74.1	77	75
		国	72.9	75	71	75.6	77	76
	算数 数学	市	78.3	82	66	59.3	63	65
		国	77.6	79	64	62.2	65	66
「活用」 B問題	国語	市	59.8	61	58	64.4	70	60
		国	57.8	58	55	66.5	72	61
	算数 数学	市	48.7	47	53	41.9	46	43
		国	47.2	46	52	44.1	48	47

## 徳 暴力行為・不登校の発生率・生徒率 (%)

## 体 体力テスト県平均以上の種目率 (%)

		小学校			中学校		
		2015→2016→2017			2015→2016→2017		
暴力 行為	市	0.26	0.27	0.23	1.11	1.17	1.05
	国	0.26	0.35	0.44	1.00	0.92	0.89
不登 校	市	0.69	0.75	0.76	2.78	3.60	3.57
	国	0.43	0.47	0.55	2.95	3.14	3.38

小学校			中学校		
2015→2016→2017			2015→2016→2017		
80.2	81.3	87.5	51.9	55.6	72.2

# 授業への意識

「全国学力・学習状況調査」 (%)

日々の授業で、

- ・ 発表する機会が与えられていた。
- ・ 話し合う活動をよく行っていた。
- ・ 目標(めあて・ねらい)が示されていた。
- ・ 授業の最後に振り返る活動を行った。

2016年		2017年	
小	中	小	中
86.5	87.3	86.0	87.6
83.8	82.3	84.3	83.1
91.1	96.2	90.3	96.2
82.5	84.2	81.6	86.1



子どもたちは、活き活きと学んでいるか？  
本当にわかっているか？

わかるとは？      できるとは？      「学ぶ」とは？



「学ぶ」とは「**生きた知識を得ること**」である。

- ・ 知識を「教えてもらう」  
のではなく「自分で探す」。
- ・ 持っている知識を総動員して、知っていることと関係づけながら理解する。



死んだ知識

- ・ 上塗りされて膨らませるだけの断片的な知識
- ・ いつ、どのように使ったら良いのか分からない

「学びとは何か」―(探究人)になるために  
慶応義塾大学  
今井むつみ教授 著





〔目的〕 小学校入学時、既に身に付けている力に差があることを前提に、全ての子どもたちに確かな学力を付ける。

# 小学校 学びづくりフロンティア校事業

国語科・算数科の授業を中心に、  
2小学校（南小，光小）の1年生が「言葉」と「数」を獲得する過程を2年間追い続ける。

## 改めて明らかになった「子どもが学ぶ過程」

- ◆ 「できる」と「分かる・理解する」ことは、必ずしも同じではないこと。
- ◆ 一人一人、「分かる・理解する」過程や方法、スピードは異なること。
- ◆ 子どもたちは、「対話」を通して、経験や既習の知識と繋げながら、自分で学んでいくこと。
- ◆ 子どもたちの問い（疑問）は教科を横断し、学年を縦断しながら、思考を繋げ・広げ・深めていくこと。



「学びが面白い！」とは、  
子どもたちが「**内発的動機付け**」  
に基づき、自律的に学ぶ姿



**自律的**  
内発的動機付け

- \* 新しいことを知ることができて嬉しい
- \* 問題を解くことが面白い

**非自律的**  
外的動機付け

- \* 叱られたくない
- \* ご褒美がもらえる
- \* 褒められたい

# “学びが面白い”に向かって大切にしてきた(きている) 考え方(価値)

- 3つの転換  
〈1〉授業・・・教師が教え込む→子どもたちが自ら考え学ぶ  
〈2〉組織(マネジメント)・・・鍋蓋→ピラミット→フラット  
〈3〉評価・・・数値・結果→実感・過程
- 計画・予定通り VS 臨機応変      既成概念・価値観(当り前) VS 疑問(何故?)
- カラフル・もっと<sup>2</sup>カラフル
- 多様性, 持続可能性
- 固定観念・成功体験のリングから踏み出す
- 使えるものは何でも使う, できることからできる人から, 挑戦!  
既存のルールにとらわれず臨機応変・何でもやってみる
- 自己選択・決定→自己実現!
- 認知の仕組みから学習方法を見直す (1)「知っている」と「使える」は別 (2)わかりやすく教  
えれば, 教えられた内容が学び手の脳に移植されて定着するという考えは, 幻想である。
- デジタル・シティズンシップ, ファシリテーション
- 「理念・抽象」と「実践・具体」の往還      「質」を求めて「実」を追求する

## ◆ 小学校 学びづくりパイロット校

「子どもがどう学ぶか」という視点から、教育課程を編成・実施。



国語科の古典、社会科の室町文化の学習などに関連付け、「能」をテーマにした探究学習

指定校：小学校11校（南・多治米・水呑・遺芳丘・坪生・新市・千年・高島・伊勢丘・神辺・鞆の浦学園）

### 【取組1 教育課程の編成・実施】

- ◇ 教科横断的な学びや異学年で学ぶ教育課程・単元等を編成・実施

### 【取組2 評価の見直し】

- ◇ 長い期間で学力の定着を確かめるテストや、作文や作品を綴じたファイル等を工夫し、「学ぶ過程」を評価

## ◆ 中学校 探究学習プログラム

〔企業と連携〕(株)教育と探求社

企業が開発した「答えのない問いを協働的に解決する学習プログラム」を総合的な学習の時間に導入。

プログラム	概要	指定校		
		2021	2020	2019
企業探究コース	実在企業からのミッションにより、教室でインターンシップを体験する	松永・千年	城南・幸千	新市中央
進路探究コース	先人の生きた軌跡から、自らの生き方・働き方等を考える	駅家	一ツ橋	城北・東朋
社会課題探究	自ら発見した社会課題の解決に取り組む	—	城西	鳳
起業家	ビジネスの種を発見し、新商品を開発する	—	神辺	城東



## ◆ 大好き！福山 ふるさと学習 〔他課と連携〕文化振興課 他 (デジタル版副読本&SDGsスタートブック編集)

- ・ 福山の資源や人々の営みをまとめた副読本を編集（2015年）し、2020年度から、1人1台の学習端末で活用できる「デジタル版」として再編集。
- ・ 全校・校区でSDGsを設定した課題発見・解決学習を実践するための福山市版SDGsスタートブック編集。

〔企業と連携〕(株)東京書籍



## ◆ 学力の伸びを把握する調査（埼玉県学力学習状況調査）

小学校4年生から中学校3年生まで、継続的に調査を行い、児童生徒が、自分自身の伸びを自覚し、自己の学びを振り返る

〔他自治体と連携〕  
埼玉県教育委員会

〔企業と連携〕  
教育測定研究所

2018年度～ 2中学校区(2中6小) で先行実施

2020年度～ 全校実施

	実施教科	小4	小5	小6	中1	中2	中3
教科	国語	○	○	○	○	○	○
	算数・数学	○	○	○	○	○	○
	英語	—	—	—	—	○	○
	アンケート	○	○	○	○	○	○

### これまでの調査との違い

- 世界共通の英語テスト「TOEFL」や学習到達度調査「PIISA」等と同じ理論で作成
- 国・県平均と比較して、高いか・低いかを見るのではなく、同じ児童生徒の前年度の学力と比較し、伸びた割合や変容を見る
- 教職員は、教科に特化した分析のみならず、日々の授業での児童生徒の姿を思い起こしながら、結果の要因を考える



児童生徒には、教科ごとに学力の変容が分かる調査結果が返却され、自分の学力等の伸びを自覚できる

## ◆ 1人1台学習端末の活用



- ◇ 整備台数 : 39,000台 (児童生徒用, 教員用, 予備)
- ◇ Wi-Fi環境 : 通常学級 特別支援学級 体育館  
小学校 音楽室 理科室 図工室 家庭科室 ランチルーム  
中学校 音楽室 理科室 美術室



### 「デジタル・シティズンシップ」の考え方を基に、「使ってみる」ことからスタート

- 検索サイトを活用した調べ学習
- 一斉学習の場面での活用
  - ・ 一人一人の反応や考えを画像等で把握し, 互いに意見交流
- 文章作成ソフト, プレゼンソフトの利用
  - ・ 子どもたち一人一人が考えをまとめて発表したり, リアルタイムで考えを共有
- 一人一人の学習状況に応じた個別学習
  - ・ 一人一人の学習進捗状況を把握し, よりきめ細やかな支援等を実施
- オンラインで提示された課題や学習用アプリに取り組む家庭学習
- オンライン授業
  - ・ 集団での学びが難しい児童生徒が, 校外のフリースクールから授業に参加
  - ・ 臨時休業, 分散登校などの緊急時に, ビデオ会議システムを使った双方向の授業



### 文科省の実証事業に, 市内全校が参加

EdTech デジタル教科書

自校の特色や学びに応じてA I型ドリルや遠隔会議などのアプリ, 教科等を選択

### ICTスキル向上研修

〔企業と連携〕 Google社 他

専門スタッフを講師に迎え, 段階的にICTスキルを身に付ける

## ガイドブック作成

2021年度、デジタル・シティズンシップの考え方の基で児童生徒が学習端末を活用する中で、各学校において見えてきた課題及び解決策などを集約・整理

〔主な内容〕

- 1 健康面での影響と対策等
  - 2 学力面での影響と対策等
    - (1) 書くこと
    - (2) 調べること
    - (3) AIドリル等の活用
    - (4) 思考の深まりなど
- ★大切にしたい「リアル」6
- 3 使い方の課題と対策等
  - 4 学習端末を使う時の約束（例）



### 大切にしたい「リアル」6

- 【書く】
- 1 小学校低学年の授業で、文や文章、数や式、計算を書く
  - 2 国語科の「言葉の特徴や使い方」「書くこと」の単元で、文字や漢字を練習したり文や文章を書いたりする
  - 3 文字や漢字、英単語など、覚えることを目的に練習する
- 【話聞】
- 4 ロイロノート等で意見を集約したのちの意見交流、対話
- 【調べる】
- 5 国語辞典や漢字辞典の使い方の学習
  - 6 図書室の本や教科書・資料集等による調べ学習を通した固有の知識の習得

➡ 2022年度～ 教委HPに各校の「学習端末活用の約束」を掲載 11



# 学習端末の活用状況

〔小学校〕

令和4年 全国学力・学習状況調査 質問紙調査 (%)

		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	計
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	福山市	<b>36.5</b>	<b>34.0</b>	<b>19.9</b>	<b>90.4</b>
	全国	26.7	31.5	25.0	83.2
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	福山市	<b>24.5</b>	<b>38.5</b>	<b>25.9</b>	<b>88.9</b>
	全国	14.3	29.6	32.2	76.1
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	福山市	<b>10.4</b>	<b>22.4</b>	<b>31.8</b>	<b>64.0</b>
	全国	6.4	16.1	26.9	49.4
学校で、自分の考えをまとめ発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	福山市	<b>10.5</b>	<b>19.6</b>	<b>27.9</b>	<b>58.0</b>
	全国	6.9	14.8	23.5	45.2

〔中学校〕

		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	計
2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	福山市	<b>55.3</b>	<b>29.7</b>	<b>11.5</b>	<b>96.5</b>
	全国	21.6	29.3	29.7	80.6
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	福山市	<b>37.9</b>	<b>36.6</b>	<b>19.6</b>	<b>94.1</b>
	全国	12.3	24.9	34.5	71.7
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	福山市	<b>17.6</b>	<b>27.9</b>	<b>29.4</b>	<b>74.9</b>
	全国	5.0	12.8	25.7	43.5
学校で、自分の考えをまとめ発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	福山市	<b>16.6</b>	<b>20.8</b>	<b>25.0</b>	<b>62.4</b>
	全国	4.7	10.3	20.3	35.3

## ◆ 特別支援教育

### ○ 「放課後デイサービス」との合同研修 〔民間と連携〕

児童生徒の力や可能性を伸ばしていくために、学校と放デイが連携・協力する体制を構築し、充実させる。

- 【主な内容】
- ・ 個別の支援計画を基にした児童生徒の様子や生活・学習状況等の交流
  - ・ 特別支援学級の授業を参観し、よりよい支援の在り方を交流・協議
  - ・ 個を特定したケース会議 等

### ○ 「アセスメントに基づく指導支援実践研究校」 〔小学校3校〕 〔企業と連携〕 (株)LITALICO

【目的】 障がいの特性に応じた支援に係る研修や特別支援学級への具体的な指導・助言を継続して実施し、特別支援学級の授業改善を推進する。

- 【主な取組】
- ・ LITALICOと協働したアセスメント（状況分析）の実施や個別支援計画の作成
  - ・ 個別の学び支援システムの教材サイトにて、サポート教材を活用
  - ・ 放課後等デイサービスなど、関係機関との連携を充実させ、多様な視点をもったチーム支援

### ○ 「子ども発達支援センター」教員長期研修 〔6か月〕 〔他課と連携〕 保健部

【目的】 就学前の子どもの発達に関わる相談や診察、訓練などの医療的支援の実際を通して、発達障がいの診断の概念や保護者への支援の考え方を理解し、学校での個に応じた学びへの支援について、他の教員への指導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

- 【内容】
- ・ 医師による診察に基づくカンファレンス等への参加
  - ・ 保健師、保育士を中心とした保護者との面談等の見学、補助
  - ・ 小学校等における個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成、活用、見直しへの参画 等

## ◆ 幼保小連携

乳幼児期における子どもの自発的、創造的な遊びや体験を通じた育ちと学びを基本に、安心感を持って小学校生活に移行し、自己を発揮し成長していくために、就学前施設と小学校の連携・接続の仕組みを構築し、内容の充実を図る。

### 参加幼保小 〔民間と連携〕

小学校・義務教育学校 72校  
公立幼・保・認定こども園等 54園  
私立幼・保・認定こども園等 104園

2022年

5月30日 「福山市幼保小連携教育キックオフ会議」開催

6月 幼保小連携校区（連携協議会）決定

6月28日 福山市幼保小連携教育合同研修会

7月～ 各校区で計画的に連携協議会を開催



## ○ 「幼保小学びの接続カリキュラム開発校事業」【2連携校区】

【目的】 就学前教育と学校教育の連携・接続を発展させ、学びの連続性を確保するカリキュラムを開発・実践する。

- 【主な取組】
- ・ 遊びや体験を通して学ぶカリキュラム開発と実践・評価・改善
  - ・ 数や言葉（語彙）、思考などの「学びの基盤に関する調査」を実施し、結果の分析をカリキュラムに反映
  - ・ 幼保小連携協議会の充実





# 多様な学びの場の充実

子ども一人一人の考えや学ぶ過程が異なることに立ち、全ての教室・教育活動において、多様性を認め合える場への転換

## ♣ 2017年度～ 生徒指導規程の見直し

- ① 各中学校区，各学校の実態
- ② 外国籍やLGBTなどの多様性や違いをこれまで以上に認め合う社会への変化などを踏まえ，児童生徒が主体となって「考え・作り・守る」ものへ

➔ 2020年度～ 教委HPに各校の「生徒指導規程」を掲載見直しを継続し，改訂ごとに更新

## ♣ 2016年度～ フリースクール等民間団体・施設等との連携 〔民間施設と連携〕

フリースクール，放課後等デイサービス等と連携し，不登校児童生徒の学習の様子や努力を踏まえながら，適切に出欠の判断をする

〔連携施設〕 民間フリースクール 7箇所

放課後等デイサービス 31箇所

# ♣ 福山市フリースクール「かがやき」 ← 「福山市適応指導教室」から名称変更 2019年 中央・東部・西部

集団での学びが難しい不登校傾向等の児童生徒が、学校以外の場で、時間や内容、方法等を決めながら学ぶ。

## ○ 一人一人に応じた学びを、児童生徒と一緒に考え計画を立てる。

- \* 個別のサポート計画の作成・運用
- \* かがやき職員と学校教職員との連携
- \* ケース会議の実施や専門機関との連携

## ○ 1人1台端末を活用し、習熟度に応じた学習や教室とのつながりを深める。

- \* EdTech教材やオンライン授業、Web会議システムの活用

## ○ 多様な活動の場を設定し、興味・関心、知的好奇心を醸成する。

- \* スポーツ（体づくり教室、ボルダリング体験、ダンス 等）
- \* 芸術（陶芸体験、イラスト教室、楽器演奏 等）
- \* IT（ドローン体験、プログラミング 等）
- \* 自然体験（植物栽培 等）



利用者数の推移

	2019	2020	2021
小学校	25	58	94
中学校	40	63	111
合計	65	121	205

(人)

2021年度地域別利用者数

	中央	東部	西部
小学校	56	21	17
中学校	62	21	28
合計	118	42	45

(人)

# ♣ 校内フリースクール「きらりルーム」

教室での学びが難しい児童生徒が、興味のあることから取り組むことができる教室。

## 2018年度

中学校6校（東・城南・城東・中央・誠之・神辺）に設置

## 2019年度

小学校2校（曙・新涯）に設置

設置校の取組を踏まえ、学校独自で工夫して、  
集団での学びが難しい児童生徒が学べる教室を設置。

## 2021年度

小学校：21校 中学校：23校 義務教育学校：1校

### ○ きらりルーム利用者数（のべ人数） (人)

	2018	2019	2020	2021
小2校	—	46	42	47
中6校	134	148	157	134



端末を活用し、自分のペースで学習



興味あることにチャレンジ

### ○ 設置校の不登校者数の推移 (人)

	2017	2018	2019	2020	2021
小2校	10	12	10	7	15
中6校	141	95	106	83	145

太枠は、きらりルームを設置した年度。

## 『Kirari Kagayaki PROJECT』

福山市フリースクール“かがやき”と、  
校内フリースクール“きらりルーム”の連携

・文化、芸術、スポーツ、野外活動、  
ICTの活用など、多様な学びの展開。



合同スポーツ大会



## ♣ 学びを開く「学校図書館」

児童生徒が落ち着いて読書を行うことができる安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての整備



〔外部人材活用〕

学校図書館コーディネーター  
児童文学評論家  
赤木かん子氏

### 市民、企業・団体の皆様からいただいた寄附の活用による整備

#### ◆ めざす学校図書館の姿

- ・ 子どもたちが楽しく散策しながら、読みたい本をいつでも手に取りリラックスできる空間
- ・ 「不思議！」「もっと調べたい！」とわくわくしながら興味を広げ、想像を膨らませる場
- ・ くつろぎながら、静かに本を読みふけることができる場

#### ◆ 改装スケジュール

- ・ 2019年度から5年間で、市立小中義務教育学校（全100校）を改装  
※2021年度末現在 小学校41校 中学校18校 義務教育学校1校 改装

#### ◆ 図書館補助員の配置

- ・ 司書教諭等と連携し、日常的に、蔵書の整理、環境整備、学校図書館を利用した授業支援、読み聞かせ等を行う。  
※2016年度(10人) 17年度(15人) 18年度(17人) 19年度(24人) 20年度(28人) 21年度(34人) 22年度(37人)



## ♣ 放課後チャレンジ教室（地域学習活動支援事業）

〔地域と連携〕

地域に在住している退職教職員や、地域住民・大学生などの支援を得て、児童に国語・算数を中心とした基礎的な内容の学力補充を行うとともに、学習意欲の向上、学習習慣の定着を図る。

- 【時間】 週1回 1～2時間
- 【場所】 図書室や小学校の空き教室、公民館など
- 【対象】 小学校4～6年生 各教室20名程度
- 【教材】 チャレンジ教室問題集〔国・算〕（ライオンズクラブからの寄附）

	2017	2018	2019	2020	2021
教室数	26	26	29	30	33
ボランティア講師（人）	157	111	146	182	187
参加児童（人）	517	455	467	413	500



### 参加児童アンケートによる意識調査

	2017	2018	2019	2020	2021
チャレンジ教室で勉強するのが楽しみ	79.9	81.7	80.8	78.8	81.3
学習意欲が高まっている	76.7	80.5	81.6	78.5	84.7
「わかった」「できた」と思うことが増えた	84.3	87.0	88.8	86.8	89.2
学校の勉強がよくわかるようになった	79.3	75.5	78.9	78.0	79.9

## ♣ 芸術文化体験

### 「10歳の君へ よこそ美術館プロジェクト」

全市立小学校4年生（約4200人）を「ふくやま美術館」に招待

〔他課と連携〕  
文化振興課



**対話型鑑賞** 学芸員が児童に質問し、子どもたちが感想を話し合いながら、見方・感じ方を広げ、深める。



#### 鑑賞後アンケート（2022年）

はじめて美術館に来た。	41.2%
作品のよさや面白さを感じた。	97.3%
作品を見たり説明を聞いたりして新しい発見があった。	93.2%
また、美術館に行ってみたいと思う。	94.1%

### 「ばらのまち福山国際音楽祭」 ～未来につなぐ子どもたちへのコンサート～

〔他課と連携〕  
文化振興課

全市立小学校5年生（約4200人）を音楽祭に招待

本物の芸術文化に触れることを通して、一人一人の可能性を  
開花させる素地を育む。



#### 鑑賞後の感想

- ・ 初めてオーケストラの生演奏を聴き、すごい迫力で、感動した。
- ・ 美しい音色で、聴いていて気持ちよかった。
- ・ 音楽を楽しんでいることが伝わってきた。

### 「伸びゆく子どもの未来とともに 渋谷育英会N響コンサート」

〔公益財団法人と連携〕

教育と文化の振興及び地域社会の健全な発展に寄与することを目的とした公益財団法人「渋谷育英会」から招待を受け、NHK交響楽団の演奏を鑑賞する。

※2020, 2021はコロナの影響により中止

【対象】 小5・6年 中1～3年（学年単位での希望）

年度	2017	2018	2019	2022
参加校数	27校	23校	31校	27校
参観人数	1545人	1542人	2271人	2550人



# ♣ 学校再編による新たな学校【2022年度開校】

## 義務教育学校「想青学園」

知・徳・体をバランスよく身に付け、様々な人々と協働して地域・国・世界の発展を担う人づくりを行う

【場所】 2中5小再編後の千年中学校

【学習】 ESD（持続可能な開発のための教育）に関連する分野をテーマにした「国語・外国語教育」「理数教育」「ふるさと学習」 基礎となる体力・気力を育む「学校体育活動」



校舎・教室  
完成予想図



常金中、新市中央中 交流授業

## 中中再編校「新市中央中学校」

地域の歴史、環境、文化、企業等を素材とした探究学習を通して、協働して新たな価値を創造する学校

【場所】 2中再編後の新市中央中学校

【学習】 新市中央中で取り組んできた「探究学習」と常金中の「ふるさと学習」を組み合わせた探究学習の充実

## イェナプラン教育校「常石ともに学園」

異年齢集団（1～3、4～6年生）を編成し、対話・遊び・学習・行事等の4つの活動を基本に、個々の違いを大切にする

【場所】 再編後の常石小学校

【学習】 ○ ブロックアワー（自立・基礎学習）…自分で計画したり、異年齢で意見交流したりしながら学ぶ  
○ ワールドオリエンテーション（協働・総合学習）…地域や科学・技術などをテーマに、異年齢で探究する



1～3年生の異年齢集団による学習

## 特認校「広瀬学園」

在籍校への登校が難しい、集団への適応が難しいなど、教育上の配慮が必要な子どもたちを対象とした小中施設一体型校

【場所】 1小1中再編後の広瀬中学校

【学習】 ○ 独自教科の創設…体験的な学習  
○ 一人一人の理解度に応じた学習…ICT教育機器の活用

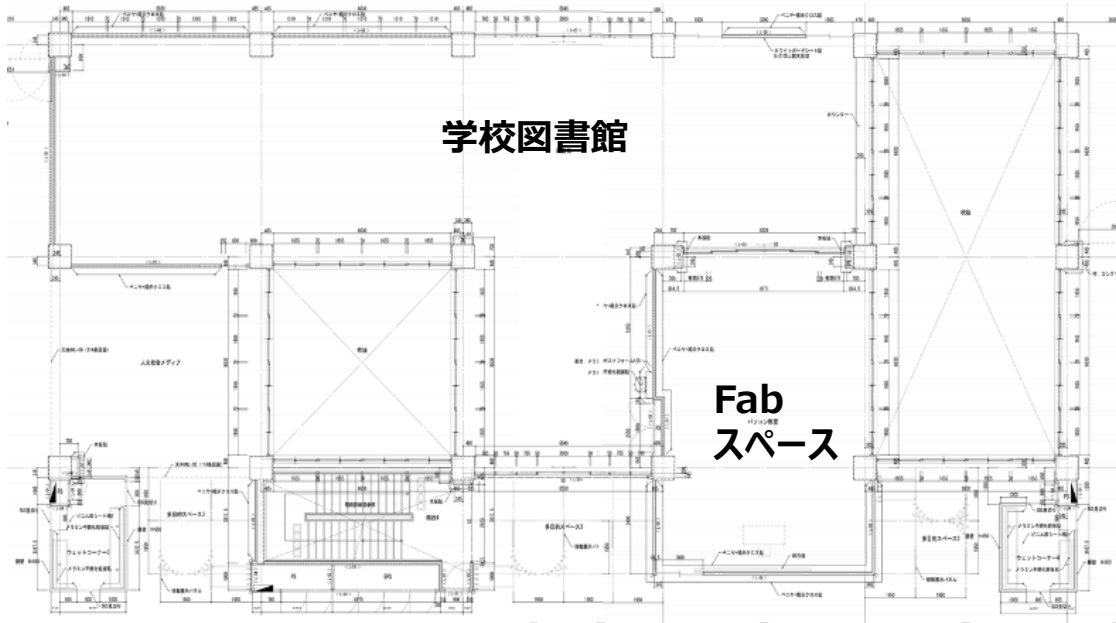


子どもたちが準備する独自教科「ひろせDASH！村プロジェクト」



## ♣ 学びをつなぎ広げる環境整備

**想青学園** ○Fabスペースやメディアスペース（言語・人文社会・数学・理科・音楽・アート等）を配置



**常石ともに学園** 多様な学びの形態に柔軟に対応できる空間



## ♣ 学びをつなぎ広げる環境整備

**靱の浦学園** 福山ブランド「靱学」を中心に地域の学習素材を発表できる舞台があるオープンスペース



**東小学校** 廊下にベンチや伝統的行事「とんど」の展示スペースがある昇降所



直線85メートルもある長い廊下



## ♣ 学びをつなぎ広げる環境整備

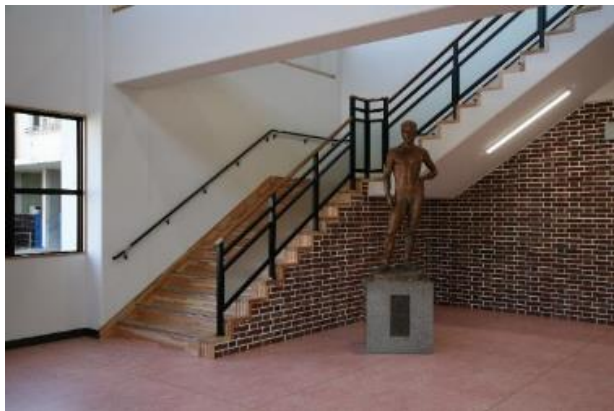
### 戸手小学校 木材をふんだんに使用した大空間の昇降所



登下校時や休憩時には、ミニ集会ができる大階段



### 城北中学校 旧校舎の歴史的な空間を継承した玄関ホール



## 2022年（令和4年）3月定例市議会答弁

〔質問〕 第三次福山教育振興基本計画策定にあたり、めざす姿の実現に向けた教育長の思い。

〔答弁〕 一部抜粋

第二次計画の成果と課題を踏まえつつ、急速に浸透するデジタル化など社会情勢の変化に柔軟に対応し、よりよい社会を創っていく人材を育成していくため、引き続き「福山100NEN教育の推進」を基本理念に、各施策に取り組んでいきます。

すべての人が年齢や環境に関係なく、主体的な学びを通して自らの可能性を広げ、多様な他者と関わりながら、希望を持って豊かに生きていくことができるよう、未来を切り拓く教育を着実に進めてまいります。

